

2023年1月8日（日）公現後第1主日・成人祝福礼拝

銀座教会 主日礼拝（家庭礼拝）

礼拝招詞「地の果てまで すべての人が主を認め、御もとに立ち帰り 国々の民が御前にひれ伏しますように。」

詩編 22編 28節

主の祈り

交読詩編 84編 6～8節

いかに幸いなことでしょう

あなたによって勇気を出し

心に広い道を見ている人は。

嘆きの谷を通るときも、そこを泉とするでしょう。

雨も降り、祝福で覆ってくれるでしょう。

彼らはいよいよ力を増して進み

ついに、シオンで神にまみえるでしょう。

使徒信条

讚美歌 453番 聞けや愛の言葉を

聖書 エズラ記1章1～11節

(1)ペルシアの王キュロスの第一年のことである。主はかつてエレミヤの口によって約束されたことを成就するため、ペルシアの王キュロスの心を動かされた。キュロスは文書にも記して、国中に次のような布告を行き渡らせた。(2)「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた。(3)あなたたちの中で主の民に属する者はだれでも、エルサレムにいますイスラエルの神、主の神殿を建てるために、ユダのエルサレムに上って行くがよい。神が共にいてくださるように。(4)すべての残りの者には、どこに寄留している者にも、その所の人々は銀、金、家財、家畜、エルサレムの神殿への随意の献げ物を持たせるようにせよ。」(5)そこで、ユダとベニヤミンの家長、祭司、レビ人、つまり神に心を動かされた者は皆、エルサレムの主の神殿を建てるために上って行こうとした。(6)周囲の人々は皆、あらゆる随意の献げ物のほかに、銀と金の器、家財、家畜、高価な贈り物をもって彼らを支援した。(7)キュロス王は、ネブカドネツアルがエルサレムの主の神殿から出させて、自分の神々の宮に納めた祭具類を取り出させた。(8)ペルシアの王キュロスは財務官ミトレダトによってそれを取り出させ、ユダの首長シェシュバツアルの前で数えさせたところ、(9)その数は次のとおりであった。金の容器三十、銀の容器一千、小刀二十九、(10)金杯三十、二級品の銀杯四百十、その他の祭具一千、(11)以上金銀の祭具の合計五千四百。シェシュバツアルは、捕囚の民がバビロンからエルサレムに上って来たとき、これらの品々をすべて携えて上った。

牧会祈禱 天の父なる神さま。本日は成人祝福礼拝としてお捧げしています。どうか、成人を迎えられたお一人お一人が、あなたの愛を知り、あなたが示してくださっている正しい道、救いの道をまっすぐに歩いていくことができますように。お守りと祝福を豊かにお与えください。この祈りを主イエス・キリストの御名によって御前にお捧げいたします。アーメン。

説教 「神に心を動かされ」

伝道師 山森 風花

主の年 2023 年に入り、聖書日課は再び旧約聖書へと戻り、私たちは歴代誌下に続く書、エズラ記 1 章 1-11 節を本日与えられています。今年度、私たちは旧約聖書を通して、神の民イスラエルが誤った道にそれて偶像崇拜にふける時、つまり、主の目に悪とされることを行った際に、ミディアン人やアッシリア人などの外国やその国の王を用いて、イスラエルの民を懲らしめる主なる神様の姿を見てきました。それと同時に、イスラエルの民が主に立ち戻ることなく、主の目に悪とされることを行い続けた姿をも、私たちは旧約聖書を通して見てきました。

その結果、歴代誌下 36 章 17 節～20 節に記されているように、主はカルデア人の王をイスラエルに向かって攻め上らせ、すべてのイスラエルを彼の手にもたらされたのでした。主の神殿の宝物もすべて残らずバビロンに持ち去られ、神殿には火が放たれ、城壁も宮殿も何もかも壊されてしまいました。また、殺されずに生き残った者たちも、捕らえられてバビロンへと連れ去られてしまうというあの惨劇、バビロン捕囚が起きてしまったのでした。

そして、このバビロン捕囚は預言者エレミヤが「(11)この地は全く廃虚となり、人の驚くところとなる。これらの民はバビロンの王に七十年の間仕える。(エレミヤ書 25 章 11 節)」と告げていたとおり、七十年の間続き、イスラエルの民は荒廃してしまった聖なる都、神殿を思いつつ、バビロン帝国の支配の下で仕えることを余儀なくされたのでした。

しかし、主は今までもそうであったように、イスラエルを懲らしめた後、そのままお見捨てになられるお方ではありません。憐れみ深く、慈しみに富む主なる神様は、預言者エレミヤの口を通して、神の民でありながらも悪を行っていたこのイスラエルに約束を与えてくださいました。それはエレミヤ書 29 章 10 節に「(10)主はこう言われる。バビロンに七十年の時満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。」と記されているとおりです。

そして、この預言者エレミヤの口を通して告げられた恵みの約束を、主はまことに実現してくださるお方であるということを伝えているのが、本日私たちに与えられた聖書箇所、エズラ記 1 章 1-11 節なのです。エズラ記 1 章 1-4 節は、ペルシア王キュロスの治世に起きた驚くべき出来事を私たちに伝えています。

(1)ペルシアの王キュロスの第一年のことである。主はかつてエレミヤの口によって約束されたことを成就するため、ペルシアの王キュロスの心を動かされた。キュロスは文書にも記して、国中に次のような布告を行き渡らせた。(2)「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた。(3)あなたたちの中で主の民に属する者はだれでも、エルサレムにいますイスラエルの神、主の神殿を建てるために、ユダのエルサレムに上って行くがよい。神が共にいてくださるように。(4)すべての残りの者には、どこに寄留している者にも、その所の人々は銀、金、家財、家畜、エルサレムの神殿への随意の献げ物を持たせるようにせよ。」(エズラ記1章1-4節)

私たちは旧約聖書を通して、主なる神様が外国の王を用いるとき、それはイスラエルの民を懲らしめるために用いられるということを見てきましたし、また先ほど確認しました。しかし、1章1節に「主はかつてエレミヤの口によって約束されたことを成就するため、ペルシアの王キュロスの心を動かされた。」と記されているように、今、このバビロン捕囚からイスラエルを解放し、帰還させるために、主はペルシア王キュロスを用いられるというのです。イスラエルの民を懲らしめるためではなく、救うために外国の王を用いるというのですから、まことに驚くべき、今までとは異なる新しいことがここで起きた、ということができるでしょう。

おそらく、世界史を学んだことがある人なら、一度はペルシア帝国という名前、また、このペルシアの王キュロスの名前を聞いたことがあるのではないのでしょうか。確かにキュロスが寛容な政策を行ったということは世界史でも学ぶことができます。しかし、聖書はこのキュロス王の心を動かしたのは他ならぬ主なる神様であり、また、その目的はイスラエルの民をバビロンから連れ戻すためであった、という驚くべきことを私たちに伝えているのです。

このことから、私たちはまことに主なる神様が私たちの生きる歴史の中で働かれるお方であり、今も後もとこしえに私たちを導いてくださるお方であるということを知ること、確信することが許されているのです。

バビロンの地において、主によって心を動かされたキュロスのこの布告を聞いたとき、捕囚の民イスラエルはどれほど大きな喜びに包まれたことでしょうか。神殿を失い、また自分たちの国から切り離され、七十年もの間、偶像崇拜がはびこるバビロンの地で生きていく日々は、神の民イスラエルにとって、憂いと絶望の歩みの日々だったことでしょう。きっと、主は神の

民イスラエルを見捨てたのではないか、もしくは、忘れてしまったのではないかと思う日々もあったことでしょう。

しかし、かつてアブラハムを召して祝福の約束を与え、また、モーセを用いてエジプトからイスラエルの民を救い出されたこの主なる神様は、神の民イスラエルをバビロンの地に置き去りにはされないのです。決してイスラエルの民をお忘れにならないのです。

出エジプト記において、モーセに「わたしは必ずあなたと共にいる」と約束してくださったこの主なる神様は、主を忘れ、約束を破り続ける神の民イスラエルとは違い、神の民を忘れることも、約束を反故にされることもないのです。他の誰でもないこの主が、ペルシアの王キュロスの心を動かし、また、ユダとベニヤミンの家長、祭司、レビ人といった、主の神殿を再建するためにエルサレムへと上っていた人々の心を動かしてくださったのです。

このように、主なる神様による働きかけがなければ、私たちは心を動かされることはありません。それはかつて私たちが信仰者となる前、主なる神様に従わず、また祈りを捧げることもなく、自分中心の生き方をしていたことから明らかです。

ですが、主は私たちの罪にもかかわらず、イスラエルだけではなく、すべての民を救うためにイエス・キリストを与えてくださったということを私たちは聖書を通してすでに知らされています。このようにして、主は異邦人である私たちの心をも動かし、信仰者、神の民としてくださったのです。ですから、この愛と恵みに富たる主なる神様に依り頼み、従いつつ、応答する者として歩んで参りたいと願います。

祈り 天の父なる神様。私たちはかつて、あなたの御言葉を聞こうともせず、あなたに祈りを捧げることも、そもそも祈りとは一体どういうものかも知らない、そのような暗闇の中で生きていました。しかし、あなたが私たち一人一人を招き導いてくださったために、私たちは私たちの創造主であられるあなたを知り、また、あなたが御子イエス・キリストを私たちに与えて下さるほどに私たちを愛してくださっていることをも知ることができました。主よ、感謝いたします。どうか私たちが罪人にも関わらず、あなたの愛を頂いていることを日々覚えて、孤独や恐れ、痛みや苦しみ、貧しさの中に置かれている時でも、あなたに愛されていることを確信し、慰めと励ましをあなたから頂きつつ、しっかりと信仰に立って、あなたの愛に応答する者として歩んでいくことができますように。 アーメン

讚美歌 5 1 7 番 我に来よと主はいま

献金

頌栄 5 4 4 番

祝禱 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。

アーメン